

Drc. 3108

Evid.

Folder 2

(12)

8

3108

九月二十五日
本案

(2)

九月二十五日日本案

合衆國及日本國政府ハ傳統的友好關係恢復ノ爲共同宣言ニ於テ表現セラルルカ如キ了解ニ關スル一般の協定ノ交渉開始及締結ノ爲共同ノ責任ヲ受諾ス

兩國國交ノ最近ノ疏隔ノ特定原因ニ論及スルコトナク兩國間友好的感情惡化ノ原因トナレル事件ノ再發ヲ防止シ且其ノ不測不幸ナル結果ニ付矯正ヲ圖ルコトハ兩國政府ノ衷心ヨリノ希望ナリ

共同ノ努力ニ依リ合衆國及日本國カ太平洋ニ於ケル平和ノ樹立及保持ノタメ有效ナル貢獻ヲ爲スコト及友好的了解ヲ速ニ完成スルコトニ依リ、世界平和ヲ助長シ且現ニ文明ヲ沒滅セントスル惧アル悲シムヘキ混亂ヲ假令一掃セシムルコト不可能ナリトスルモ之カ惡化ヲ

國家機密

1

抑制センコトハ兩國政府ノ眞摯ナル希望ナリ

斯カル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄弱ナリ。仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲ不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ關シ拘束スヘキ一般的了解ヲ成立セシメ之ヲ完成スル爲ニハ適當ノ手段ヲ案出實施スルコトヲ希望ス

兩國政府ハ斯ル了解ニハ緊急ヲ要スル樞要問題ノミヲ包含セシメ後日會議ノ審議ニ讓リ得ヘキ附隨的事項ハ之ヲ含マシメサルコト然ルヘシト信ス

兩國政府ハ左ノ如キ特定ノ事態及態度ヲ明瞭ニシ又ハ改善スルニ於テハ融和關係ノ達成ヲ期待シ得ヘシト認ム

一 國際關係及國家ノ本質ニ關スル合衆國及日本國ノ觀念

二 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三 日支間ノ和平解決ニ對スル措置

四 兩國間ノ通商

五 南西太平洋地域ニ於ケル經濟問題

六 太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル方針

因テ合衆國政府及日本國政府ハ茲ニ左ノ相互的了解及政策ノ宣言ニ
到達セリ

第一條 (國際關係及國家ノ本質ニ關スル觀念)

兩國政府ハ其ノ國策ハ永續的平和ノ樹立竝ニ兩國民間ノ相互信賴
及協力ノ新時代ノ創始ヲ目的トスルモノナルコトヲ確認ス

兩國政府ハ各國家及民族カ正義及衡平ニ依ル萬邦協和ノ理想ノ下

ニ生存スル一字ヲナスコトハ其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念竝ニ
確信ナルコトヲ聲明ス。即チ平和的の手續ニ依リ規律セラレ、且ツ
精神的及物質的福祉ノ追求ヲ目的トスル相關の利害關係ニ基キ何
レモ等シク權利ヲ享有シ、責任ヲ容認ス、而シテ右福祉タルヤ、
各國家及民族カ他ノ爲ニ之ヲ毀損スヘカラサルト同様ニ自ラノ爲
ニ之ヲ擁護スヘキモノトス、更ニ兩國政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ
搾取ヲ排撃スヘキ各自ノ責任ヲ容認ス

兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル各自ノ傳統的觀念竝ニ社會的秩序
及國家生活ノ基礎的の道義的の原則ハ引續キ之ヲ保存スヘク、且右道
義的の原則及觀念ニ反スル外來ノ思想又ハ)理念ニ依リ之ヲ變革セ
シメサルコトヲ固ク決意ス

第二條（歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度）

兩國政府ハ世界平和ノ招來ヲ共同ノ目標トシテ適當ナル時機至ル時ハ相協力シテ世界平和ノ速カナル克復ニ努力スヘシ

世界平和克復前ニ於ケル事態ノ諸發展ニ對シテハ兩國政府ハ防護ト自衛トノ見地ヨリ行動スヘク、又合衆國ノ歐洲戰爭參入ノ場合ニ於ケル日本國獨逸國及伊太利國間三國條約ニ對スル日本國ノ解釋及之ニ伴フ義務履行ハ専ラ自主的ニ行ハルヘシ

第三條（日支間ノ和平解決ニ對スル措置）

兩國政府ハ支那事變ノ解決カ太平洋全域ノ平和延イテハ世界ノ平和ニ至大ノ關係アルヲ認メ之カ急速ナル實現促進ノ爲、努力スヘシ
合衆國政府ハ支那事變解決ニ對スル日本國政府ノ努力ト誠意ト

諒解シ、之カ實現促進ノ爲重慶政權ニ對シ戰鬪行爲ノ終結及平和關係ノ恢復ノ爲速ニ日本國政府ト交渉ニ入ル味橋渡シヲ爲スヘク且日本國政府ノ支那事變解決ニ關スル措置及努力ニ支障ヲ與フルカ如キ一切ノ措置及行動ニ出テザルヘシ

日本國政府ハ支那事變解決ニ關スル基礎的一般條件カ近衛聲明ニ示サレタル原則及石原則ニ基キ既ニ實施セラレタル日支間約定及事項ト矛盾セサルモノナルコト竝ニ日支間ノ經濟協力ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別ノ原則及隣接國間ニ於ケル自然的特殊緊密關係存立ノ原則ニ基キ行ハルヘク而シテ第三國ノ經濟活動ハ公正ナル基礎ニ於テ行ハルル限リ之ヲ排除スルモノニ非ルコトヲ囑明ス

(註) 日支和平基礎條件別紙ノ通り

連絡會議決定案ニ依ル

第四條 (日本兩國間ノ通商)

兩國政府ハ兩國間正常ノ通商關係ヲ恢復セシムルニ必要ナル措置ヲ遲滯ナク講スルコトニ同意ス

兩國政府ハ前項ノ措置ノ第一着手トシテ現ニ實施シツツアル相互ノ凍結措置ヲ直ニ撤廢シ且兩國ノ一方カ供給シ得且他方カ必要トスルカ如キ物資ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ

第五條 (南西太平洋ニ關スル經濟問題)

兩國政府ハ南西太平洋地域ニ於ケル日本國及合衆國ノ經濟活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵

ヒ行ハルヘキコトヲ相互ニ誓約ス

兩國政府ハ前項ノ政策遂行ノ爲兩國力通商手續ニ依リ各國力目國ノ經濟ノ安全防衛及發達ノ爲必要トスル商品及物資獲得ノ手段ヲ確保スル爲ノ合理的機會ヲ有シ得ルカ如キ國際通商及國際投資ノ條件創設ニ付相互ニ協力スヘキコトニ同意ス

兩國政府ハ石油、護謨、一ニツケル、錫等ノ特種物資ノ生産及供給ニ付無差別待遇ノ基礎ニ於テ關係諸國トノ協定及其ノ實行ニ關シ友好的ニ協力スヘシ

第六條 一太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル方針

兩國政府ハ太平洋地域ニ於ケル事態ノ速カナル安定ノ緊要ナル所以ヲ認メ右安定ニ脅威ヲ與フルカ如キ措置及行動ニ出テサルヘキ

コトヲ約ス

日本國政府ハ佛領印度支那ヲ基地トシテ其ノ近接地域ハ支那ヲ除クニ武力的進出ヲ爲ササルヘク又太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立スル機會ニハ現ニ佛領印度支那ニ派遣シ居ル日本國軍隊ハ之ヲ撤退スヘシ

合衆國政府ハ南西太平洋地域ニ於ケル軍事的借遣ヲ輕減スヘシ

兩國政府ハ「タイ」及蘭領印度ノ主權及領土ヲ尊重スヘキコト政ニ比律賓ノ獨立カ完成セラルヘキ際ニ於テ同群島ノ中立化ニ付協定ヲ締結スルノ用意アルコトヲ聲明ス

合衆國政府ハ比律賓群島ニ於ケル日本國人ニ對スル無差別待遇ヲ保障スヘシ

別紙

日支和平基礎條件

一、善隣友好

二、主權及領土ノ尊重

三、日支共同防備

日支兩國ノ安全ノ脅威トナルヘキ共產主義的政ニ其他ノ秩序攪亂運動防止及治安維持ノ爲ノ日支協力

右ノ爲及從前ノ取極及慣例ニ基ク一定地域ニ於ケル日本國軍隊及艦船部隊ノ所要期間駐屯

四、撤兵

支那事變遂行ノ爲支那ニ派遣セラレタル前號以外ノ軍隊ハ事變解決ニ伴ヒ撤退

五 經濟提携

イ、支那ニ於ケル重要國防資源ノ開發利用ヲ主トスル日支經濟提携ヲ行フ

ロ、右ハ公正ナル基礎ニ於テ行ハルル在支第三國經濟活動ヲ制限スルコトナシ

六 蔣政權ト汪政府トノ台流

七 非併台

八 無賠償

九 滿洲國承認